

第4回大崎圏域会議

【日時】令和7年1月17日（金）午後1時30分から午後2時45分まで

【場所】グランド平成 2階 孔雀の間

【委員からの主な意見】

（1）第6期みやぎ観光戦略プランの最終案

①全般

- 宮城の特徴が平坦になってしまうことがないよう、基本理念の All-round については、地域の特色を生かしたとがった施策で、全国に打ち出していきやり方をしっかり検討してもらいたい。
- 宿泊税を活用するので、知事自ら宮城県は観光立県であると宣言するところまでいければ良い。

②数値目標

- 外国人観光客宿泊者数を120万人泊とする目標について、東北や宮城県の全国シェアは低いと説明されたが、実際のインバウンド数やシェアはもっと多いと思われるので、宿泊施設などからより正確なデータを取れる仕組みづくりに、県が取り組んでもらえると良い。

（2）圏域の施策の方向性及び取組

- 宮城県として All-round に取り組むにあたり、圏域の特色を出していくことも重要で、大崎圏域は食という部分に力を入れていくべきと思う。
- 関係者の意見を聞きながら、大崎のお勧めの食とセットのツアーなど、具体的なアイデアを議論し、より良いものにしてもらいたい。
- 第6期プランにとっても期待している。宿泊観光客数の高い目標を掲げているので、それを実現できるよう圏域全体で頑張っていきたい。
- 計画は作って終わりではなくプランができてからが勝負だと思うし、我々も観光戦略課や地方振興事務所と連携していくので、大崎圏域内の他市町の特徴的な取組やアイデアを共有できるようにしてもらいたい。
- 他の計画でもそうだが、計画を作ったものの連携した取り組みが実際なかなかできていない。
- 新たな財源を活用していくために、これまで以上に圏域の連携を深め、数値目標の達成に向けた体制作りを考えていければ良いと思っている。